

STAGE+を楽しむ(165)(HP 収載)
—オラフソンのバッハ《ゴルトベルク変奏曲》—

1. 始めに

前報(164)に引き続き、STAGE+のオラフソンのバッハ《ゴルトベルク変奏曲》の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はオラフソンのバッハ《ゴルトベルク変奏曲》の演奏を選びました。

オラフソンが、地元レイキャビクで奏でる《ゴルトベルク変奏曲》

ハルパ

収録日: 2024年2月14日

2023年のクラシック・チャートを席卷した全曲盤のリリースに合わせて、《ゴルトベルク変奏曲》全曲を世界6大陸で通算88回も演奏するツアーを敢行中のヴィキングル・オラフソン。全国各地で絶賛を集めた12月の来日公演の記憶もまだ新しい、この巡礼プロジェクトがいよいよ佳境を迎えようとしています。そんな中、彼の地元レイキャビクを代表するコンサート施設、ハルパの小さなリサイタルホールで披露される演奏をお届けします。今回の集大成ともいえるこの特別なステージをお聴き逃しなく！

ソリスト:

ヴィキングル・オラフソン (ピアノ)

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ 《ゴルトベルク変奏曲》 BWV 988



3. 試聴の経過

前回は引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpLを接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

また、CDクリーナーの効果(9)で報告しましたようにPCのストリーミング再生において、PCの液晶画面とLAN iSilencerとルーターに対するCDクリーナーの処理を行っています。今回も、スイッチングハブとルーターのLANポートにフェルトダンブ端子を装着しています。さらに今回も、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、Brooklyn DAC+と仮想アース Crystal Eとの接続と DA-3000と自作仮想アースへのアースアキュライザーの導入とAVドーナツの使用などを行っています。

オラフソンのゴルトベルク変奏曲は、DG125周年記念コンサートのソウル芸術の殿堂での演奏を [STAGE+を楽しむ\(107\)](#) で報告しています。先にリリースされたアルバムは、[STAGE+を楽しむ\(86\)](#) でも報告しています。STAGE+を楽しむ(107)では、LANアキュライザー2個と Crstal EpL が加わっていますが、その後、フェルトダンブLAN端子や BrooklynDAC+と Crystal Eとの接続にアースアキュライザーが、DAC-3000のRCAポートと自作仮想アースとの接続にアースアキュライザーとAVドーナツが加わっています。

オラフソンの演奏は、STAGE+を楽しむ(86)でも報告したように、優しく美しく、この曲を抒情的と言えるくらいソフトタッチで表現しており、また、STAGE+を楽しむ(107)で報告しましたように、ピアノのタッチの鋭さや余韻が鮮明ですし、ホール内の残響もリアルでした。今回は、さらにアースアキュライザーとAVドーナツの効果で、音が一層声明になり、抑揚や強弱が鮮明になっています。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、LANポートにフェルトダンプ端子を装着し、さらに、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、Brooklyn DAC+と仮想アース Crystal E との接続と DA-3000 と自作仮想アースへのアースアキュライザーの導入と AV ドーナッツの使用などを行った結果、以前の収録の際の印象から音が一層声明になり、抑揚や強弱が鮮明になっており、オラフソンの演奏の真髄が分かるようになっていきます。

以上